

コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2022年7月29日

Nature :

サル痘：豊かな国々は新型コロナ対策の失敗に学んで、低中所得国にしっかり援助すべきである

【松崎雑感】

なぜWHOがサル痘緊急事態宣言を出したか、不思議に思っていたのですが、Natureの記事を見ると、性的接触による感染拡大のおそれが、HIVと同じレベルで懸念されるため、WHOが英断したという風に私は理解しました。過去の教訓に学んで、WHOがしっかり先手を打ったという事で、賞賛に値する宣言だと思います。日本も含む高所得国が低中所得国にしっかり支援することなしに、地球全体のwelfareはないという事です。なお、サル痘の概略は6月27日のコロナ情報を参照してください。

松崎道幸 道北勤医協ながやま医院 matsuzaki-m@dohoku-kinikyo.or.jp

サル痘：豊かな国々は新型コロナ対策の失敗に学んで、低中所得国にしっかり援助すべきである

Monkeypox: wealthy countries must avoid their COVID-19 mistakes. *Nature*. 2022;607(7920):635-636. doi:10.1038/d41586-022-02036-9

数十年間無視されてきたサル痘：高所得国はワクチンと治療資源を低中所得国に提供する義務がある

サル痘の患者が急増している。50か国から3千名以上の患者が報告されたため、5月にWHOは、サル痘について国際的懸念公衆衛生緊急事態宣言（public health emergency of international concern (PHEIC)）を出した。7月23日現在患者数は75か国から1万6千名を数えている。

WHOの専門家アドバイザーには、この緊急事態宣言に反対する者が多かったが、先週末の会合では、WHOの方針は変わらなかった。

したがって、加盟各国は、宣言に従って、サル痘の主要な流行国である低中所得国に十分な衛生医療資源の供給を行うことが必要となった。新型コロナ対策での失敗を繰り返してはならない。

失敗とは何か。それは、新型コロナパンデミック中に世界中でワクチンの争奪合戦という無駄な争いが起きたことを指す。

天然痘ワクチンはサル痘予防に効果があるが、低中所得国では、ワクチンも診断のための医療資源も不足している。ワクチン供給者は専門家および保健担当者と協力して、それぞれの国でどのような資源が必要なのかを明らかにする必要がある。

緊急事態宣言の発出により、WHOは各国に診断キット、治療薬、ワクチンの製造を促進するように要請を行うことになっている。

そうすると、新型コロナの時にそうだったように、（WHOの宣言により）政府、大学、企業の調査研究がしっかりと後押しされるようになる（したがって、サル痘に関する対策が一層前進することが期待される：松崎追加）。

WHOのアドバイザー等は、適切な対策を行えば（緊急事態宣言という大仰なことをしなくとも）サル痘流行を押さえることができるとして、緊急事態宣言に反対した。

現在、ヨーロッパと北アメリカで、サル痘は、男性同士の性的接触を持つ者の間に多く流行しているという現状がある。

したがって、これらの人々に対するワクチン接種を重点的に行うならば、当面の対策は十分となると解釈されるだろう。

しかし、緊急事態宣言を支持する人々は、今回のサル痘のアウトブレイクそのものが異常事態であり、公衆衛生対策を国際的調整のもとに進める必要があるという宣言の必要要件は満たされていると主張している。

このような判断の背景事情を解説すると次のようになる。

昨年までは、サル痘の新規患者のほとんどが中央アフリカと西アフリカで発生していた。

しかし、今回のアウトブレイクでは、70名に達する死亡者はすべてアフリカの国々で、免疫の弱い小児と高齢の人々に発生している。

コンゴ民主共和国では、この10年間で数千人のサル痘疑い患者が発生し、毒性の強い株に感染した人々の10%、数百人が死亡している。

しかし、正確な数字とは言えず、実際にはもっと死亡率が高いおそれがあると言われている。

WHOは、**世界中にサル痘の危険性を周知させるために**、ヨーロッパと北アメリカでのアウトブレイクをきっかけとして、緊急事態宣言を出すという、ある意味当たり前の手法を講じたのである。

アメリカン大学ナイジェリアのエマニュエル・アラクンレ氏とマラキー・オケケ氏はNature Reviews Microbiology誌の論説に寄稿して、今回のサル痘アウトブレイクが「ほとんど注目されてこなかった地域的流行が重大な事態をもたらすおそれがあることを知らせる警報である」と述べている。

先月、ナイジェリアCDCの疫学専門家アデソラ・インカ・オグンレイ氏は、数年前から疫学者はサル痘が広がり続けていると警告してきたと本紙に語った。

「現在、世界はサル痘を無視してきたツケを払わされている」と彼女は語った。

今回の緊急事態宣言は、こうした公衆衛生対策の遅れと間違いを正すきっかけとなる。

高所得国には、新型コロナ対策での教訓をくみ取る義務が課されている。

緊急事態に際して、ワクチンや治療薬の入手競争をすることはナンセンスである。

診断法とワクチンを最も必要とする国や地域に供給することが大事だ。

今月のUS National Public Radioでのインタビュー番組で、US Agency for International Development (USAID)のグローバルヘルス担当官アトゥル・ガワンデ氏は、最貧国ほどワクチン入手が困難となっていると語った。

ワクチンと治療薬の主要な供給元であるUSAIDの高官がこのように言明したことは重要である。

最貧国ほど新型コロナで被害を受けた国はない。サル痘を防ぐワクチンが必要な人々に届くように豊かな国々は、コロナの教訓を生かして取り組むべきである。